

【所属名：市民生活課環境生活係】

会 議 録

作成日 令和8年8月4日

件名	令和8年度 第1回 糸魚川市環境審議会				
日	令和8年7月16日（木）	時間	10時00分から 11時45分まで	場所	市役所 201、 202 会議室
出席者	・ 委 員【出席】山縣会長、田原副会長、渡邊(悦)委員、石崎委員、吉田委員 平野委員、小林委員、田上委員、高柳委員、渡邊（幸）委員 中根委員、高橋委員 ・ 事務局【市民生活課】小竹課長、木嶋課長補佐、橋場係長、八木主査 伊井主事				
	傍聴者定員	—		傍聴者数	—

会議要旨

- 1 開会（進行：木嶋課長補佐）
- 2 自己紹介
- 3 会長・副会長の選出
- 4 議事（進行：山縣会長）

【第2次糸魚川市環境基本計画 令和7年度進捗状況について】

資料No.1に基づき説明し、その後委員から質疑・意見をいただいた。

<主な質疑・意見>

【委 員】能生地域の河川で小水力発電の設置について話があったが、4・5年経過しても進捗が見られない。事務局に情報はるか？

【事務局】昨今の電力需要、物価の高騰により、事業を中止したり、再検討したいという業者が増えており、なかなか増加していないという現状である。

【委 員】「多面的機能支払交付金対象面積」について、目標値が1,400haで、見直し時が1,453haに対し、報告数値が1,332haでは減りすぎているように感じるが、これに対してどのような考え方をしているのか？

【事務局】なるべく多面的機能支払交付金対象面積を維持することで、農地の荒廃などを防いでいきたいと考えている。農林水産課と連携し、確認をしていきたい。

【委 員】市内でのツキノワグマとイノシシ等の生息数はどのくらいになるのか？

【事務局】ツキノワグマのデータは毎年県が調べている。令和7年度の調査による推測の生息数は、8,747頭。令和6年度は1,378頭。なかなか正確な数値を把握できていないことが課題である。県でも環境省からの補助金を貰う中で、生息数の調査をしている。イノシシは、3,000～4,000頭くらいになる。

- 【委 員】クマはドローンで熱源写真を撮れるが、市ではやらないのか？
- 【事務局】提案もあり検討はしているが、いくつか課題があり、木が茂っているときは使えない、また、市街地で使えないことや資格が必要なこともあり、導入に至っていないのが現状である。実際、上空から音を出せるなど魅力的な点もあるので、猟友会と相談し、導入の検討をしたい。
- 【委 員】シカは増加しているのか？
- 【事務局】増加している。昨年の捕獲数は227頭で、100頭くらい増えている状況である。食害は今のところ目立っていないが、駆除はしっかりしていきたい。
- 【委 員】サルの食害も増えているが、何か対策はあるか？
- 【事務局】市内全域で出ている。サルは群れで行動するため、むやみに手を出すと群れが分割し、生息範囲が広がる恐れがある。市単独で駆除を行うのは難しいため、猟友会や地域と協力し、最も有効な方法で駆除するようにしたい。
- 【委 員】市内でクマやサルがごみ箱をあさっていることがあった。地域で張り紙をしたり、あさられたごみを片付けたりしているが、ボランティアでは限界があるので、市で対策をしてほしい。
- 【事務局】観光客にも影響が出てくる問題のため、秋シーズンの対策については、観光課とも連携をし、対策を検討したい。
- 【委 員】外来生物の駆除をもっと宣伝してもらいたい。周知が行き届いておらず、市民は関心がない。押上や寺町の「オオキンケイギク」は私有地に咲いているため、除去できない状態が続いている。植物・動物を問わず市内には外来生物が多くいる。1回の広報で終わらず、何回も周知するようにしてもらいたい。
- 【事務局】広報の回数の増加については対応させていただき、市民に普及できるよう啓発に取り組んでいきたい。

【希少野生動植物保護条例に基づく指定種の追加について】

<主な質疑・意見>

- 【委 員】モモンガの名称については、「ニホンモモンガ」が正しいのではないか？また、「イトイガワコリス・ヴィーナストウルス」は和名ではなく、なぜカタカナなのか？
- 【委 員】和名はインターネットでしか見ることができず、情報量が非常に少ない。発見者はアメリカの先生と論文を発表されたため、和名ではなくカタカナ表記となっている。
- 【委 員】和名ではなく、学名と表記する方が適切だと思う。
- 【事務局】モモンガについては、「ニホンモモンガ」と表記する。「イトイガワコリス・ヴィーナストウルス」については、発表された学術論文を確認し、適切な表記で条例に指定する。
→「*Itoigawa coris venustulus*」（学名）で指定する。

5 その他

【委 員】糸魚川市には、生物を専門とした職員が一人もいないため、希少野生動植物が貴重な財産であることが、市民に認知されていない。採用をお願いしたい。

6 閉会（田原副会長）